

運営規程（例）

| 運営規程の記載例   | 作成に当たっての留意事項  |
|--|---|
| <p style="text-align: center;"><b>障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律<br/>に基づく〇〇〇（就労継続支援A型）運営規程</b></p> <p>（事業の目的）</p> <p>第1条 ***が設置する〇〇〇（以下「事業所」という。）において実施する指定障害福祉サービスの就労継続支援A型（以下「就労継続支援A型」という。）の適正な運営を確保するために必要な人員及び運営管理に関する事項を定め、就労継続支援A型の円滑な運営管理を図るとともに、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な就労継続支援A型の提供を確保することを目的とする。</p> <p>（運営の方針）</p> <p>第2条 事業所は、利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、利用者を雇用し就労の機会を提供するとともに、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の便宜を適切かつ効果的に行うものとする。</p> <p>2 就労継続支援A型の実施に当たっては、利用者の必要な時に必要な就労継続支援A型の提供ができるよう努めるものとする。</p> <p>3 就労継続支援A型の実施に当たっては、地域との結び付きを重視し、利用者の所在する市町村、他の指定障害福祉サービス事業者その他福祉サービス又は保健医療サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。</p> <p>4 前三項のほか、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」（平成17年法律第123号。以下「法」という。）、<br/>「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準」（平成18年厚生労働省令第171号）及び「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例」（平成24年千葉県条例第88号）に定める内容のほかその他関係法令等を遵守し、事業を実施するものとする。</p> <p>（事業所の名称等）</p> <p>第3条 事業を行う事業所の名称及び所在地は、次のとおりとする。</p> <p>（1）名 称 〇〇〇</p> | <p>「〇〇〇」は、事業所の正式名称を記載してください。</p> <p>「***」は、開設者（法人名）を、「〇〇〇」は、事業所の正式名称を記載してください。</p> <p>「〇〇〇」は、事業所の正式名称</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>(2) 所在地 千葉県××市×丁目×番×号 **ビル×号</p> <p>(職員の職種、員数及び職務の内容)</p> <p>第4条 事業所における職員の職種、員数及び職務の内容は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省令等で定める基準を下回らない範囲で変動することがある。</p> <p>(1) 管理者 1名<br/> 管理者は、従業者の管理、就労継続支援A型の利用の申し込みに係る調整、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行うとともに、法令等において規定されている就労継続支援A型の実施に関し、事業所の職員に対し遵守させるため必要な指揮命令を行う。</p> <p>(2) サービス管理責任者 ○名以上<br/> サービス管理責任者は、就労継続支援A型計画の作成に関することを行うほか、利用申込者の心身の状況等の把握、利用者の自立した日常生活に向けた検討、他の従業者に対する技術指導又は助言等を行う。</p> <p>(3) 職業指導員 ○名以上<br/> 職業指導員は、・・・を行う。</p> <p>(4) 生活支援員 ○名以上<br/> 生活支援員は、・・・を行う。</p> <p>(5) (その他職員がいる場合記入する。)</p> <p>(営業日及び営業時間)</p> <p>第5条 事業所の営業日及び営業時間等は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 営業日<br/> 月曜日から土曜日まで</p> <p>(2) 営業時間 (サービス提供時間)<br/> 平日 8:30~18:00 (9:00~17:00)<br/> 土曜日 8:30~13:00 (9:00~12:00)</p> <p>(3) 年間の休日<br/> 日曜日、祝日及び12月29日から1月3日まで</p> <p>(利用定員)</p> <p>第6条 事業所の利用者の定員は、1日当たり○○人とする。</p> <p>(就労継続支援A型の内容)</p> <p>第7条 事業所は、利用者の希望を踏まえ、その心身の状況に応じ、利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう、適切な技術を持って次のことを行い、利用者に対し、その有する能力を活用す</p> | <p>を記載してください。</p> <p>所在地は、住居表示、ビル名等を正確に記載してください。</p> <p>各職種の職務の内容も簡潔に記載してください。</p> <p>職名は、法人及び施設内部で定めている呼称ではなく、本体施設の指定基準で配置を求められている職名で記載してください。</p> <p>職員の職種等の記載に際しては、「付表12 就労継続支援事業の指定に係る記載事項」及び「参考様式5-1 従業者等の勤務体制及び勤務形態一覧表」の記載内容(人数・常勤/非常勤・専従/兼務等)と一致しているか確認してください。</p> <p>営業日、営業時間等を設定してください。</p> <p>左記事例は一例であり、運営規程の作成に当たっては、実際に営業する日時、サービス提供時間及び休日について記載してください。</p> <p>事業所で定める定員を記載してください。</p> <p>*原則10人以上</p> <p>なお、1日に設定した定員以上の受け入れは不可となります。</p> |
|--|---|

ることにより、地域生活を営むことができるよう、利用者の心身の特性に応じた必要な訓練を行う。

(1) 就労継続支援A型計画の作成

事業所は、利用者及びその家族の生活に対する意向、総合的な支援の方針、生活全般の質を向上させるための課題、就労継続支援A型の目標及びその達成時期、就労継続支援A型を提供する上での留意事項等を記載した就労継続支援A型計画を作成する。

(2) 生産活動の提供

事業所は、生産活動の機会の提供に当たって、地域の実情並びに製品及びサービスの需給状況等を考慮しつつ、利用者の心身の状況や意向、適性、障害の特性その他の事情を踏まえて行う。また、生産活動の能率の向上が図られるよう、利用者の障害の特性等を踏まえた工夫を行う。

(3) 職場実習、施設外就労、施設外支援の実施

事業所は、利用者が就労継続支援A型計画に沿って実習、施設外就労、施設外支援ができるよう、実習等の受入先の確保を行う。また、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び特別支援学校などの関係機関と連携して、利用者の就労に対する適性や要望に応じた職種・実習の受入先の確保に努める。また就労継続支援A型計画に沿って必要な施設外就労、施設外支援を行う。

(4) 求職活動の支援

事業所は、公共職業安定所での求職登録等、利用者が行う求職活動の支援を行う。また、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び特別支援学校などの関係機関と連携して、利用者の就労に関する適性や要望に応じた職場開拓に努める。

(5) 職場定着のための支援

事業所は、利用者の職場定着を促進するため、公共職業安定所、障害者就労・生活支援センター及び特別支援学校などの関係機関と連携して、利用者が就職した日から6月以上、職業生活における相談等の支援を継続するよう努める。

(生産活動の内容)

第8条 事業所で行う生産活動の内容は、次のとおりとする。

- (1) 食品・雑貨等の製造・販売
- (2) 飲食店における調理補助等
- (3) 農作物の生産・加工・販売
- (4) 清掃・クリーニング業務 その他

事業所で行う生産活動について具体的に記載してください。

(雇用契約の締結等)

第9条 事業所は、就労継続支援A型の提供に当たっては、利用者と雇用契約を締結するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、利用者が雇用契約に基づく就労が困難である場合は、事業者は、雇用契約を締結しないことができるものとする。

(賃金及び工賃)

第10条 事業所は、雇用契約を締結した利用者が生産活動に従事した場合は、労働基準法(昭和22年法律第49号)及び最低賃金法(昭和34年法律第137号)その他関係法令及び別に定める賃金支給規程に基づき、賃金を支払うものとする。

2 事業所は、生産活動に係る事業の収入から生産活動に係る事業に必要な経費を控除した額に相当する金額が、利用者に支払う賃金の総額以上となるようにするものとする。

3 事業所は、前条第2項の規定により雇用契約を締結しない利用者が生産活動に従事した場合は、当該利用者に対し、別に定める工賃支給規程に基づき、生産活動に係る事業の収入から生産活動に係る事業に必要な経費を控除した額に相当する金額を工賃として支払うものとする。

4 前項の場合においては、利用者1人当たりに対して支払う1月当たりの工賃の平均額は、3千円を下回らないものとする。

(労働時間及び作業時間)

第11条 雇用契約を締結した利用者に係る1日の労働時間は、5時間以上から8時間以下の範囲で、利用者の個別の状況を勘案し、雇用契約書を取り交わし決定する。

2 雇用契約を締結していない利用者に係る1日の所定作業時間は、原則として午前〇時から午後〇時までとし、所定作業時間内であれば、個別支援計画に基づき行った作業に対して、時間単位で工賃を支給することができる。

所定作業時間を設定してください。

(利用者から受領する費用の種類及びその額等)

第12条 事業所は、就労継続支援A型を提供した際は、支給決定障害者から当該就労継続支援A型に係る利用者負担額の支払を受けるものとする。

2 事業所は、法定代理受領を行わない就労継続支援A型を提供した際は、支給決定障害者から当該就労継続支援A型に係る指定障害福祉サービス等費用基準額(以下「費用基準額」という。)の支払を受けるものとする。

|  |   |
|--|---|
| <p>3 事業所は、前二項のほか、次に定める費用については、利用者から徴収することが出来るものとする。</p> <p>(1) 食事の提供に要する費用として厚生労働大臣が定める額</p> <p>(2) 日用品費</p> <p>(3) その他事業所において提供される便宜に要する費用のうち、日常生活においても通常必要となるものに係る費用であって、利用者に負担させることが適当と認められるもの</p> <p>4 事業所は、前三項に係る費用の支払を受けた場合は、当該費用に係る領収証を、当該費用を支払った支給決定障害者に対し交付するものとする。</p> <p>5 事業所は、第3項に係る費用の額に係るサービスの提供に当たっては、あらかじめ、支給決定障害者の同意を得るものとする。</p> <p>(通常の事業の実施地域)</p> <p>第13条 通常の事業の実施地域は、〇〇市の全域とする。</p> <p>(サービスの利用に当たっての留意事項)</p> <p>第14条 サービスを利用するに当たっては、次に規定する内容に留意するものとする。</p> <p>(1) 〇〇〇こと</p> <p>(2) 〇〇〇こと</p> <p>(3) 〇〇〇こと</p> <p>(緊急時等における対応方法)</p> <p>第15条 従業者は、現に就労継続支援A型の提供を行っているときに利用者に病状の急変が生じた場合その他必要な場合は、速やかに主治医への連絡を行う等の必要な措置を講ずるとともに、管理者に報告するものとする。</p> <p>2 主治医への連絡等が困難な場合には、医療機関への連絡を行う等の必要な措置を講ずるものとする。</p> <p>(非常災害対策)</p> <p>第16条 事業所は、非常災害に関する具体的計画を立て、非常災害時の関係機関への通報及び連絡体制を整備し、それらを定期的に従業者に周知するとともに、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行うものとする。</p> <p>(就労継続支援A型を提供する主たる対象者)</p> <p>第17条 事業所において就労継続支援A型を提供する主たる対象者は、次のとおりとする。</p> | <p>設定してください。</p> <p>留意事項を事業所において設定してください。</p> |
|--|---|

(1) 身体障害者(細分なし、肢体不自由、視覚障害、聴覚・言語障害、内部障害)

(2) 知的障害者

(3) 精神障害者

(4) 難病等対象者

(苦情解決)

第18条 事業所は、提供した就労継続支援A型に関する利用者からの苦情に迅速かつ適切に対応するために、苦情を受け付けるための窓口を設置するものとする。

2 事業所は、提供した就労継続支援A型に関し、法第10条第1項の規定により市町村が、また、法第11条第2項又は法第48条第1項の規定により千葉県知事又は市町村長が行う報告若しくは文書その他の物件の提出若しくは提示の命令、又は当該職員からの質問若しくは就労継続支援A型事業所の設備若しくは帳簿書類その他の物件の検査に応じ、及び利用者又はその家族からの苦情に関して市町村又は、千葉県知事及び市町村長が行う調査に協力するとともに、市町村又は、千葉県知事及び市町村長から指導又は助言を受けた場合は、当該指導又は助言に従って必要な改善を行うものとする。

3 事業所は、社会福祉法(昭和26年法律第45号)第83条に規定する運営適正化委員会が同法第85条の規定により行う調査又はあつせんのできる限り協力するものとする。

(虐待防止に関する事項)

第19条 事業所は、利用者の人権の擁護・虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、従業員に対し、研修を実施する等の措置を講ずる。

2 虐待防止のための対策を検討する委員会として虐待防止委員会を設置するとともに、委員会での検討結果を従業員に周知徹底する。

(身体拘束の適正化)

第20条 事業所は、身体拘束等を行う場合には、その態様及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録する。

2 身体拘束等の適正化のための対策委員会を定期的開催するとともに、その結果について、従業員に周知徹底を図る。

3 身体拘束等の適正化のための指針を整備する。

4 従業員に対し、身体拘束等の適正化のための研修を定期的に行

特定する場合は、「参考様式7 指定障害福祉サービスの主たる対象者を特定する理由等」による届出内容を記載してください。

身体障害者の後ろの括弧内は、該当するもの以外を削除してください。なお、障害の種類に関係なく対象とするときは、「身体障害者(細分なし)」のように記載してください。

施する。

(感染症や災害への対応力の強化)

第21条 事業所は、感染症又は食中毒が発生し、又はまん延しないように、次の各号に掲げる措置を講じるものとする。

(1) 感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための対策を検討する委員会を定期的に開催するとともに、その結果について、従業者に周知徹底を図る。

(2) 感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための指針を整備する。

(3) 従業者に対し、感染症及び食中毒の予防及びまん延の防止のための研修並びに感染症の予防及びまん延の防止のための訓練を定期的実施する。

2 事業所は、感染症や非常災害の発生時において、利用者に対するサービスの提供を継続的に実施するための、及び非常時の体制で早期の業務再開を図るための計画（以下「業務継続計画」という。）を策定し、当該業務継続計画に従い必要な措置を講じるものとする。

3 事業所は、従業者に対し、業務継続計画について周知するとともに、必要な研修及び訓練を定期的実施するものとする。

4 事業所は、定期的に業務継続計画の見直しを行い、必要に応じて業務継続計画の変更を行うものとする。

5 事業所は、第3項に規定する非常災害に備えるための訓練の実施に当たって、地域住民の参加が得られるよう連携に努めるものとする。

(ハラスメント対策)

第22条 適切なサービスの提供を確保する観点から、職場において行われる性的な言動又は優越的な関係を背景とした言動であつて業務上必要かつ相当な範囲を超えたものにより従業者の就業環境が害されることを防止するための方針の明確化等の必要な措置を講じるものとする。

(その他運営に関する重要事項)

第23条 事業所は、職員の資質の向上のために研修の機会を次のとおり設けるものとし、また、業務の執行体制についても検証、整備するものとする。

(1) 採用時研修 採用後○か月以内

(2) 継続研修 年○回

2 職員は、その業務上知り得た利用者の秘密を保持するものとする。

る。

3 職員であった者に、業務上知り得た利用者又はその家族の秘密を保持するため、職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を、職員との雇用契約の内容とする。

4 事業所は、法第29条第1項に規定する指定障害福祉サービス事業者等に対して、利用者又はその家族に関する情報を提供する際は、あらかじめ文書により利用者又はその家族の同意を得るものとする。

5 事業所は、職員、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備するものとする。

6 事業所は、利用者に対する就労継続支援A型の提供に関する諸記録を整備し、当該就労継続支援A型を提供した日から5年間保存するものとする。

7 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は\*\*\*と事業所の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

「\*\*\*」は、開設者（法人名）を記載してください。

#### 附 則

この規程は、令和〇年〇月〇日から施行する。

この規程は、令和〇年〇月〇日から施行する。

指定開始予定年月日を記載してください。

改正する場合は、改正後の施行年月日を一番下に加筆してください。